

いしづち

愛媛労災病院広報紙 第10巻第1号

（通巻第59号）

2012年1月5日発行

発行人：病院長 内藤克輔

理念：当院は働く人々のために、そして地域の人々のために信頼される医療を目指します

- 基本方針
1. インフォームドコンセントの実践
 2. 安全かつ良質な医療の提供
 3. 勤労者医療の推進



精巣捻転が疑われた精巣上体垂捻転の一例 2

医療安全管理者の活動 3 形態検査について 3

新居浜公開糖尿病教室 4 市民公開講座予定表 4

精巣捻転が疑われた精巣上部垂捻転の一例

泌尿器科 田島基史、山岡伸好

患者: 7歳、男児

主訴: 下腹部痛、陰嚢痛

既往歴: 特記すべきことなし、出生時経過に異常なし
 現病歴: 3日前より間欠的な陰嚢痛を自覚していた。
 夕より急激な陰嚢痛あり、午後9時頃より下腹部痛
 出現したため午後11時頃当院救急外来受診。

来院時身体所見: 腹部は平坦・軟、左下腹部に圧痛
 (+)、筋性防御(+)、左陰嚢皮膚は発赤・腫脹、左
 陰嚢に強い圧痛(+)、左精巣頭側に腫瘤を触れる。
 (Fig.1)



Fig.1

画像所見(精巣エコー): 左精巣血流低下を認めず。
 左精巣頭側に腫瘤像あり。(Fig.2)

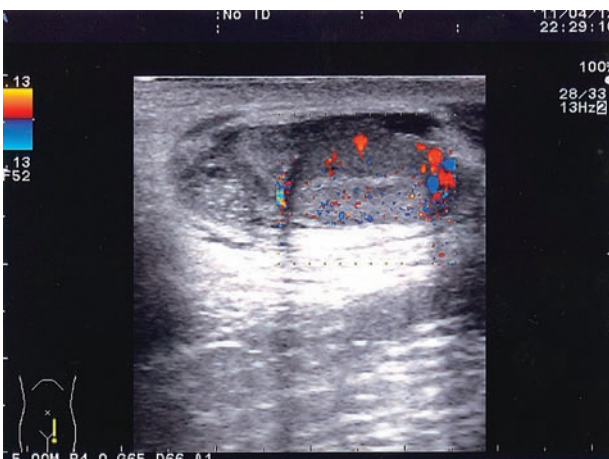


Fig.2

検尿: 異常なし

血液検査: 異常なし

経過: 精巣捻転が否定できず緊急手術施行。

手術所見: 精索の捻転は認めず精巣上部に腫大した
 精巣上部垂を認めた。精巣は血色良好であった。
 (Fig.3)



Fig.3

術後経過: 術後経過に問題なく術後2日目に退院。
 考察: 精巣上部垂は小児急性陰嚢症の1/3を占めると
 考えられており、通常は経過観察のみで対応可能
 である。しかし急性陰嚢症の診察において精巣捻転
 を否定できない場合は常に精巣捻転として取り扱
 う。仮に精巣捻転であった場合、4-6時間以内に捻
 転解除術を施行すれば精巣温存可能、6時間を超え
 ても放置すれば抗精子抗体の産生により健側の
 造精能の低下を来すため摘除手術が必要となる。精
 巣捻転の診断には超音波検査、MRI、血流シンチ等
 の検査の有用性が示唆されているが、どの検査も確
 定診断は困難であり臨床所見を踏まえて判断する必
 要がある。

	精巣捻転	その他
症 状	<ul style="list-style-type: none"> ・急激な強い疼痛 ・反復する軽度の疼痛の既往 ・腹膜刺激症状 	<ul style="list-style-type: none"> ・緩徐な発症 ・精巣上部炎
身体所見	<ul style="list-style-type: none"> ・精巣全体の腫大 ・精巣の挙上 ・軸の変異(横位) ・挙睾筋反射消失 	<ul style="list-style-type: none"> ・Blue Dot Sign ・精巣上部垂捻転
尿 検 査	<ul style="list-style-type: none"> ・膿尿なし 	<ul style="list-style-type: none"> ・膿尿あり ・精巣上部炎
精巣超音波	<ul style="list-style-type: none"> ・不均一な内部エコー ・血流低下 	

医療安全管理者の活動

医療安全管理者 土居しのぶ

医療安全管理室は3階管理棟の一室にあり、医療安全管理者と感染管理認定看護師の2名が協力しながら活動しています。質の高い、安全・安心な医療を提供するために、医療事故や感染を未然に防ぐことを最大の目的とし組織横断的に活動しています。今回は医療安全管理者の業務内容と今年度の活動についてご紹介します。1.インシデント報告等の収集と分析・改善策、再発防止策の検討・実施。2.インシデントカンファレンスへの参加(随時)。3.院内パトロール：環境面での安全確認やルールに準じた安全活動の実施状況の確認。4.医療安全に関する研修会や講習会の企画・開催：新規採用者研修、看護部教育ラダー研修、委託業者職員研修、復職者研修の講師、医療安全職員研修会(2回/年)開催。今年度は「災害時(震災)の医療ガスの確保について」と「当院の災害(震災)対策の現状について」をテーマに開催し、120名を超える参加を得ました。5.医療安全に関する委員会等の開催(院内医療安全対策委員会は1回/月、リスクマネージャー会は1回/週、医療安全カンファレンスは1回/週)。6.医療安全推進週間行事の企画・実施・評価。今年度は、医療安全標語入りポスター35作品掲示し、職員・患者・面会者等によるコンク

ル投票を実施しました。また、市民医療講座として、「放射線被ばくについて」、「AED講座」を開催し、地域のみなさまや患者さんに多数ご参加いただきました。7.患者医療相談(苦情・クレーム対応)。安全管理に関するご相談等に対応させていただいています。8.医療安全に関する情報の取得及び院内への配信。他施設での事故事例を速やかに職員へ周知するようにつとめ、また、全国労災病院間のネットワークや県内医療安全管理者ネットワークを活用して、より実践可能な安全対策がとれるよう情報発信に努めています。今後とも安全安心な医療の提供の為に、職員ひとりひとりのスキルの向上と患者さんや家族の方々との共同行動推進にご協力ください。



形態検査について

検査科技師長 鳥越健一

検査科は検体検査室、生理検査室、病理検査室、エコー室に分かれて、多くの検査業務を行っています。今回は顕微鏡を使用して、形の変化を検査する形態検査(末梢血液像、尿沈渣、細胞診)について簡単にご説明します。

【末梢血液像検査】血液をスライドガラスに塗抹して顕微鏡で調べる検査です。白血球分画(好中球、好酸球、好塩基球、リンパ球、単球)のバランスや赤血球、白血球、血小板の形態異常が無いかを調べます。血液の病気では白血分画のバランスが崩れたり、一部の分画の細胞や若い細胞が増加したり、形に異常を認めることがあります。例えば、成人T細胞白血病(ATL)症例では特異な核のくびれを認める異常リンパ球が見られます。症例によっては血液中出现する異常リンパ球が少い症例、核の形態異常が乏しい症例など多様で見落しに注意が必要です。

【尿沈渣】採取された尿を遠心して生ずる沈渣(赤血球、白血球、上皮細胞、細菌、結晶)を顕微鏡で観察して調べる検査です。尿は腎臓でつくられて尿路や膀胱を通り、排泄されます。その間にはがれ落ちたりして混入する沈渣を調べることで腎臓や尿路系の病

気の種類や部位を推定することが可能となります。尿沈渣は多くの医療機関で頻繁に行われている検査の一つで日本臨床衛生検査技師会では標準化の取り組みが積極的になされている分野です。当院検査科でも標準法に沿って技術の向上を図り、迅速に報告しています。

【細胞診】採取した細胞を顕微鏡で観察しやすいように、色をつけた標本を作製して調べます。それには高度な技術を習得した細胞検査士(臨床検査技師)と細胞診指導医(医師)とで行われます。細胞診の対象は婦人科領域(子宮頸部、子宮体部等)、喀痰、尿、腹水、胸水等で広範囲に及びます。また、腫瘍に直接、針を刺して細胞を採取して検査する穿刺吸引細胞診では乳腺、甲状腺、リンパ節等が対象となります。悪性腫瘍の診断には欠かせない検査で広く一般的に行われています。細胞診は痛みが少ないので繰り返し検査ができ、早期癌の発見に有効とされています。

現在、末梢血液像と尿沈渣は自動分析機器でスクリーニングを行い、確認を必要とする検体は顕微鏡を用いて再検査後に報告しています。形態検査は経験と知識を必要とされ、担当技師によって結果がバラツキしやすい検査でもあります。微力ではありますが形態検査の精度向上を目指し、スタッフと共に精度の高い検査データを迅速に報告できるように努めてまいります。

新居浜公開糖尿病教室

内科 中井一彰

11月26日リーガロイヤルホテルに於いて、市内の他病院と協同で新居浜公開糖尿病教室を開催いたしました。今年度は東日本大震災の教訓を生かしてもらうため「災害時の糖尿病療養」をテーマに、3名の講師による講演形式としました。新居浜協立病院の谷本浩二先生は、被災地で医療支援活動をした際、薬を忘れたために避難所で持病が悪化する症例を多数診た御経験から、避難する時には内服薬を必ず持参するよう強調されました。日本イーライリリー株式会社の加藤拓郎先生は、薬剤の備蓄を持つことや手帳を忘れた場合に備えて、薬品名を覚えておく必要性をお話されました。県立新居浜病院看護師の田中智恵子先生は、「災害時持ち出し袋」を準備



して内服薬や手帳、非常食などを入れておくことなど日頃の備えや、避難生活における療養上の注意点を話されました。講演は実践的内容であり、将来発生が予想される南海地震に備えるための患者教育になったと思います。

今回の震災において日本糖尿病学会、協会は対策本部や支援チームを組織して、被災された方々に医療情報を提供し、製薬会社各社も電話による医療相談を設けておりました。このような学会や企業による支援体制の他に、地域に密着した体制づくりも必要と思われます。新居浜地区における災害時の患者支援体制はまだ確立しておらず、病院間の連携をより強化して構築していく必要性を感じた次第です。



愛媛労災病院市民公開講座「健康教室」予定表

会場: 愛媛労災病院南館2階・大会議室 時間: 15:00 ~ 16:00

回数	開催年月日	演 題	講 師
第100回	2012.01.19 (木)	中高年のためのメタボ対策と足腰強化法	味生俊・勤労者予防医療部長
第101回	2012.02.16 (木)	高齢者のための眼瞼下垂と逆さまつげについて	黒住望・形成外科部長
第102回	2012.03.15 (木)	家庭でできる救急蘇生	高橋令子・集中治療部看護師長

(注) 日程・開催場所は、変更になることがあります。

※参加無料です

! 広報紙編集メンバー: 委員長: 稲見精神科部長
! 委員: 友澤副院長、医局長(中井内科部長)、看護副部長、師長1名(外来田中)、師長補佐1名(北7和田)、小野薬剤師、小川作業療法士、正岡診療放射線技師、伊藤臨床検査技師、西主任栄養士、総務課長、庶務係長、地域医療連携室員